



CONTENTS

- 平成26年度スポーツ振興支援事業報告書
- 平成26年度地域振興事業報告書

- 奨学生の声紹介
- 平成27年度スポーツ振興支援事業並びに地域振興事業募集中

シリーズ 第20回

この本をあなたにも薦めたい
ハーバード流「NO」と言わせない交渉術
ウィリアム・ユリー(著) 斎藤精一郎(訳)

“奨学会だより”でつなぐ 夢の架け橋

伊藤青少年育成奨学会と、奨学生のみなさん、県下の高等学校の運動部並びに文化系部活動のみなさん、そしてこれから奨学金を受けたいと希望しているみなさんをつなぐ架け橋として「奨学会だより」を発行しております。わたしたち奨学会は、郷土・岐阜の未来を切り拓く青少年のみなさんが、その夢を実現することができるようにと、平成12年から資金援助を行っています。

しかし、みなさんが目標にしている“夢”は容易に手に入るものではありません。実現までの道のりは長く、厳しく、途中幾度となく諦めを感じること少なくないと思います。

そんなときに、どこか遠くで頑張っているほかの奨学生の様子を目にすることができれば、きっとみなさんの励みになるのではないのでしょうか。

また、わたしたちの活動をまだ知らない方々もたくさんいらっしゃるはず。経済的理由から将来に不安を持ち、夢を諦めようとしている仲間達もいるかもしれません。

そんな方々に、みなさんの頑張っている声を聞いていただきたい——「奨学会だより」の発行にはそんな願いも託されています。

スポーツ振興支援



平成26年度スポーツ振興支援校からの報告書の一部です。

大垣商業高校 弓道部 支後金で弓と競技用の矢を購入。支援への感謝をモチベーションに国民体育大会7位入賞!



このたびのスポーツ振興支援金ありがとうございました。おかげさまで不足していた弓を購入することができました。また、競技用の矢を買いそろえることができました。

弓道で使用する弓は、上達に応じて、引く強さの異なる弓を使用し、また、引き尺に応じて異なる長さの弓を使用し、さらに、手の大きさにより太さの異なる弓を使用します。特に重要なこと

は強さの違いで、1kg単位で、8kgから17kgぐらいまでの弓を3年間の間に変えていきます。現在、部員が男女合わせて50名を超えており、それぞれの体力や技術に合った弓を使用することができませんでした。

今回の支後金で弓をたくさん購入することができました。技術と体力に応じて弓を選択できる

ことになり、練習効果が上がり、的中率の向上につながりました。また、手首の痛みを訴える生徒もいなくなりました。

また、今回の支援金では、競技用の矢を購入することができました。国民体育大会では近代的競技と遠的競技が行われます。それぞれに使用する矢が異なり、それをそろえる必要があります。また競技用の矢もこれまでは比較的安価なジュラルミン製の矢を使用していました。それでも一人50,000円以上の矢を使用していました。今回の支援金ではカーボン製の高価な矢を購入することができました。一人2セット使用するため、近的、遠的合わせて一人分で120,000円以上の支出となります。今回、岐阜県の国体最終選考会に出場した選手が使用し、本校の生徒がトップの成績で岐阜県代表に選出され、東海ブロック大会を勝ち抜き、本国体では7位入賞という成績をおさめることができました。

道具の充実とともに成績も徐々に始端、生徒たちの部活動に対する姿勢も大きく変わってきています。恵まれた環境に対する感謝の気持ちを持つ生徒が増え、より一層気合いのこもった練習をしています。今後ますます努力していきたいと思っております。

顧問 小森裕

可茂特別支援学校 サッカー部 来年度は芝生グラウンドも完成。フットサルゴールを活用し、さらに実践練習の強化へ。



このたびは、本校サッカー部にご支援いただき、ありがとうございました。この度のご支援により、フットサルゴールを購入させていただきました。試合形式の練習をする際、コートの大さの調節が容易になり、人数も生徒の実態や練習の目的に合わせた状態にしやすくなる等、非常に有効に活用させていただいております。生徒も購入したフットサルゴールを非常に気に入っており、喜んでゴールにボールを蹴り込む姿が見られます。

さて、現在、本校サッカー部は「第20回東海地区特別支援学校知的障害教育サッカー大会」の岐阜県予選会に出場しています。本戦の部については東海大会の出場権獲得と岐阜県優勝を目指していますが、結果は現在2戦2勝と目標に向かって順調に進んでいます。フレンドリーの部

については交流戦ですが、試合の中でこれまでの練習の成果が発揮され、技術やチームワークの向上が見られます。しかし、どちらのチームも試合経験の不足により、練習でできていることが試合の中で生かされていません。今後は購入させていただいたフットサルゴールも活用し、より実践に近い練習に取り組み、試合の中で生かすことのできる技術、体力を身につけていきたいと考えています。

話はかわりますが、本校は現在、グラウンドの芝生化を進めております。今年度は半面(サッカーコート1面程度)に芝の苗を植えました。来年度、さらに半面に植える予定ですが、普段から天然芝のグラウンドで練習や試合ができる環境ができてくつあるということで、本校サッカー部だけでなく、地域のサッカークラブ、県内の特別支援学校サッカー部等、多くの人が芝生の成長を楽しみにしています。用具についても整備を進め、皆がサッカーを楽しむことができる環境を作っていきたいと考えております。今後ともご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

顧問 鈴木祐史

益田清風高校 女子バレーボール部 目標は全国大会の舞台で高田高校(岩手県陸前高田市)と再会すること。バレーを通じて、さらなる復興支援を!



さてこの度は、平成26年度の(公財)伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興事業の資金援助対象団体として益田清風高等学校女子バレーボール部をお選びいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。支援金の使途については報告書のとおりです。長年使用してきたバスの破損や故障がひどく、今回は燃料噴射ポンプ・オートマチックミッションの修理・外装や錆などにかかった修理の代金として充てさせていただきました。

さて、益田清風高等学校女子バレーボール部の活動や成績ですが、平成26年度の岐阜県高校総体兼全国・東海高校総体女子バレーボール競技岐阜県予選において準優勝を果たし、東海高校総体へ出場しました。山間部の学校であるがために、なかなか優秀な選手も集まらず、ましてや地元から都市部

や県外へ流出する選手の方が多いくらいです。このような環境ですが、あきらめることなく練習をつづけた結果、あと一歩でインターハイ出場というところまでこぎつきました。

また、申請書にも書きましたが、東北大震災以来、陸前高田の高田高校バレー部と交流し、できる限りの援助をしたいとがんばってきましたが、この夏も、石川県輪島市にて高田高校と練習試合を計画し、交流試合を行いました。わずかですが、義援金をお渡しすることもできました。これまでの3年を振り返ってみると、津波に市街地のすべてを呑みこまれた高田の街の景色を忘れることなく、バレーを通じて復興を願い、バレーを通じて少しずつ元気になる陸前高田を感じてきました。支援金のおかげでバスも修理できました。再び陸前高田を訪れることもできそうです。その興には、あの3月11日に、生徒・教員が避難していた裏山の高台に移転が決まり、現在工事中の高田高校の校舎も完成していると思っております。

このことを思うと、いろいろな感慨が胸にせまります。もう一度高田高校を訪れて、バレーの街「陸前高田」が元気になっている姿を見たいと思ったり、今後も精進を重ね、全国大会の舞台で高田高校と再会したいと思っております。

顧問 熊崎雅文

岐阜工業高校 吹奏楽部 「一つの音が音楽になる」…新しい楽器も加わり、素直な気持ちで感動を与える演奏を!



この度は、伊藤青少年育成奨学会様より「地域振興支援事業」を賜り心から感謝し、お礼申し上げます。今回は、コンサートバスドラムとクラリネット2本を購入させて頂きました。どちらも今まで使っていた楽器が古くなり、買い替えを考えていたところ、貴財団の対象校となり希望が叶いました。

本校の吹奏楽部は、現在1年生15名・2年生14名、合わせて29名で活動しています。すべての部員が高校から吹奏楽を始めた者ばかりで、一人も中学からの経験者はいません。ですから、とにかく「吹奏楽が好き」と思ってもらえるような指導を心掛けています。その甲斐があって、多くの生徒たちが毎日の練習に真剣に取り組んでいます。

岐阜工業高校ということで、他にも違った特徴があります。本年度は、硬式野球部が全国高等学校野球選手権の岐阜県大会決勝まで進み、すべての試合で応援演奏をしました。また、サッカー部の全国高校サッカー選手権大会の全国大会に、昨年度に引き続き

応援に行きます。いずれも、応援に行った際に感じることは、運動部系部活動の上位大会進出校の多くが、吹奏楽部もまた上位大会進出校であることです。私たち吹奏楽部も頑張らねばと思います。

楽器を始めて楽しいことは、まずは「音が出る」こと。次に「曲が吹ける」こと。最後に「合奏する」ことだと思います。ですが、ここまでは個人や団体の問題です。本当の喜びは、聞いている人を感動させることです。部員には「吹奏楽は技術力と芸術性の結晶」と常々言っていますが、生徒の「生き方」や「考え方」が表現できるような演奏が出来ることを期待しています。そのためには、人の気持ちを感じ取れる力。すなわち「思いやりの心」が必要です。私たち顧問は、その環境を整えるのが仕事であり責務です。

年度が代わると本校創立90周年を迎え、記念演奏会を行います。また、新入部員を迎え、今後は大きな編成も視野に入れてます。現在は、大編成に必要なオーボエ・ファゴット・ストリングベースがありません。また、既存の楽器の老朽化による更新や、部員増に対する楽器の不足にも対応する必要があります。

最後になりましたが、貴財団のご厚意に感謝し、期待を裏切らないよう努力いたします。

顧問 桂川 寛

大垣西高校 和太鼓部



寄付していただきました寄付金で新しく長胴太鼓等を新調させていただきました。

左の写真が新しく購入させていただきました長胴太鼓です。長胴太鼓は大変高価であり、新しく購入することは困難でしたので生徒も大変喜んでおります。

この太鼓の下で支えとなっている太鼓の台も今回購入させていただきました。この台は材料から製作までを特注で作っております。

地域貢献への想いを、和太鼓演奏で力強く響かせたい。

その他には左に写真がありますように、大太鼓や桶太鼓のロープを購入させていただきました。新しくロープを締めなおすと生き生きとした音に生まれ変わります。

今年度に入り、1年生が新たな部員として入部いたしました。毎年入部する人数が右肩上がりが増えておりまして、太鼓の台が不足しておりましたので大変ありがたく使わせていただいております。本校の和太鼓部は地域貢献を主な活動としておりまして、ほとんど毎月、老人介護施設や、地域のお祭りに参加させていただいております。

今回寄付していただいた太鼓を大切に、これからも練習に励み、地域貢献をしていけるように努力してまいります。

顧問 桐山由希菜

多治見西高校 箏曲部

多くの人に琴の音の美しさを知ってもらいたい、を願って演奏を続けます。



この度は、伊藤青少年育成奨学会地域振興事業の対象に本校箏曲部を選定していただき誠に有り難うございました。おかげさまで十三弦琴を3面購入することができました。

多治見西高等学校箏曲部は創部してまだ15年ほどの新しい部です。きっかけは本校職員のご家族で琴の教室を開いて

みえる方がいらっしやっただので、活動があまり目立たない文化系部活動を少し活発にしようというねらいもあり、早速お願いして講師に就いていただき箏曲部誕生となりました。

今回の支援金で購入した琴は夏休みには届き、早速その琴を使用して練習に取り組んでいます。新しい琴はやはりどの琴と比べても美しく、部員たちは自分たちの琴を前に改めて今まで以上に練習に力を入れていこうと強く思いました。新しい琴のお披

露目にもなった9月6日の学校祭では、学校祭にふさわしい「夏祭り」を演奏しました。またその後すぐ9月13日には下石公民館での「お月見コンサート」にも出演しました。こちらでは地域のお年寄りの方が多く来場されましたので、コンクールでも演奏する予定の「ミレニアム・ロード」を演奏し、多くの拍手をいただきました。地域の方へは施設訪問という形でこれからも活動していきたいと思っています。(差し当たっては11月12月に老人介護施設への訪問を予定しています。)

今後の活動ですが、一番の目標は11月に開催される「岐阜県高等学校ギター・マンドリン、邦楽合奏コンクール」において、最優秀賞を獲得し全国大会への切符を手に入れることです。今の私たちにとってはかなりハードルが高いのですが、とにかく練習を重ねて少しでも目標に近づけるように取り組んでいきたいと思ひます。

最後になりましたが、この度は伊藤理事長様をはじめ奨学会の皆様には深く感謝申し上げます。箏曲を県内の高校で活動している学校は数少ないですが、今後とも琴の音の素晴らしさを少しでも多くの方に伝えていくつもりで、精一杯活動を続けていきたいと思ひます。

顧問 古川暢二

岐阜高校 自然科学部生物班

整備した顕微鏡を活用し、より充実した研究活動が可能に。県内の高校生物教員とも成果を共有して授業のレベルアップを目指す。



今回の支援金により、蛍光顕微鏡のカメラ、ソフト、あわせて実体顕微鏡を整備することができ、普段の研究活動をより充実させることが可能になりました。特に、今までは顕微鏡写真の撮影を岐阜大学の顕微鏡カメラを利用させていただきに通っていましたが、岐阜高校で行うことができるようになったことは嬉しい

ことです。じっくりと観察ができ、すぐに結果をまとめることができるなど利点はか

りです。また、解析ソフトを利用して、細胞や組織のサイズや面積の測定を行うことが可能になり研究の幅が広がりました。さらには、授業で最先端科学実習を展開する中で、生徒に最新の研究手法で解析した顕微鏡観察像を提示することも可能となりました。また、この成果を県内の高校生物教員に還元するために、平成26年度県理科担当者会議(生物部会)を11月28日に岐阜高校で開催しました。約80名の先生方が参加され、実験講座を行い、蛍光顕微鏡での観察後、整備したカメラ、ソフトを利用いただきました。

今後、さらに利用の機会を増やし、自然科学部生物班の研究の充実、岐阜高校での授業のレベルアップに努めていきたいと思ひます。

教諭 矢追雄一

清野 可苗

千葉大学
文学部日本文学学科 2年
(岐阜県立加茂高等学校卒)

アルバイトをセーブして学業に打ち込めるようになった。ゆとりを生かしてボランティア活動にも挑戦!多くの出会いに感謝する日々。

二年生になったことで、日本文学学科の多くの専門科目を受講できるようになった。一年生の概説から興味をもった日本語についての日本文法、古代文学、そして中国に関わる中国哲学、中国語をメインに受講している。学科に関して言えば、4年生での卒論研究に関してゼミに参加しなければならないので、それが今期の中心となっている。日本文法のゼミでは類義語がどのように重なりどのように異なるのかを調査し発表することになっている。私は副詞「あっさり」と「さっぱり」について調べ発表した。あたり前のように使い分けて使用する言葉に関する研究は面白い。又、古代文学に関するゼミでは『万葉集』の問答歌をピックアップし、どのようなやりとりがあったか、どのように万葉仮名を讀みくだせるか、どう解釈

できるかを調べ発表することになっている。こちらのゼミでの発表はもう少し先の予定だが、古代の人々が歌を詠み合ってどのような生活、恋愛をしていたのかを調べている。今も昔も共通する思いが詠みこまれていることが興味深く、本当に面白い。これらの知識を国語教師になるならば、多くの生徒に伝えていきたいし、日本語教師になるならば、多くの外国人をサポートしたい。又、今まで私や家族を支援してくれている市町村の役場で働くことで地域に貢献する道も選択できる。今、たくさんのことを学び、もう少し経ってからどのような未来を選ぶか、選択肢が多くあるような生活をおくりたい。

奨学会からのコメント 大和言葉の副詞はなるほど大変おもしろい。そんな切り口を生徒に教えてほしいもの。生徒が日本人であれば外国人であれ。万葉集もまた、日本人の情感を知り、育むすばらしい書物です。このようなものに囲まれ研究しつつ人間的に成長できれば理想的ですね。そうすればいかなる道を選んでも、周囲の人間に喜びを与えられると思います。

西山 沙絵

名古屋大学
文学部日文学科 4年
(愛知県立一宮興道高等学校卒)

公務員試験のため勉強と部活動、どちらかを諦めるのではなく両方を頑張ることで最良の結果に!

卒業論文執筆に向け、障害者に関する文献だけでなく、考察で扱う理論文献も読み始めました。私は知的障害者の支援員の方々の労働について考えるため、感情労働という枠組みを使用することにしました。A.R. ホックシールドは『管理される心—感情が商品になるとき』において、客室乗務員や集金人という職業を事例として、対人業務における感情管理について論じています。表向き感情(表情や行動)と実際の感情の異なる表層演技や、実際の感情を変える深層演技のように感情管理を理念化し働くスタンスとその危険性について指摘する文献でした。これらが支援員の働く際の感情にどのようにあてはまり、どのように異なるのか、ひいてはどのようにすれば支援員と利用者の双方にとって

働きやすくなるのか、この卒業論文で考えていきます。

8月に行われたゼミ合宿では、ヴェブレンの『有閑階級の理論』を扱いました。有閑階級の出現の理由を資本主義の独占化に伴う貸付資本の形成の中に見出し、彼らの消費を分析し思考習慣をくみ取るものでした。中には経済的な話も出てきますが、試験勉強の中で経済を勉強していたことで読みやすくなり、試験勉強が教養として身につけていることが嬉しかったです。こういった一見自分の論文とは関係の薄い文献からも、社会学的手法を学び自分の論文にいかしていきます。

奨学会からのコメント 「新幹線お掃除の天使たち」に見られる日本人の現場主義。日本人の行動は震災の時でも分かるように、世界でも抜きん出ているという。クールジャパンを卒論に反映させ、ホックシールドをより弁証法的に発展させられないか。もうひとつ、現場を見ることで、救急搬送の時短システムを構築した佐賀県庁の公務員円城寺雄介氏。公務員になっても志を高く。

水野 佑磨

早稲田大学
先進理工・電生 3年
(多治見北高等学校卒)

いよいよ研究室配属へ。生命への興味を發展させ、制御工学分野の研究に意欲的に取り組みたい。

私が在籍する電気・情報生命工学科は、1年生から3年生の前期までは、電気、情報、生命、工学の4つの分野について幅広く学び3年生の後期から、それぞれが専攻する分野を決めて研究室に配属されるというシステムを取っています。そして、先日ついに配属が決定し、私は「情報」の分野の1つである制御工学を専攻する研究室へと配属されることになりました。私がこの分野に興味をもったきっかけは「フィードバック制御」についての実験でした。コンピュータでプログラムを入力して、台車を動かすことによって、その台車についている振り子のような棒を直立させて安定させるという実験でした。台車は、自身の位置、スピード、振り子との角度を讀みとり、コンピュータに送り再び指示を受けて動く

いうことを繰り返して、振り子が安定するような状態を目指します。この一連の流れをフィードバック制御といいます。私がこの実験がおもしろいと思ったのは、そこに人体との関連が見えたからです。人間も、目、耳などの感覚器官を使って現状を把握し脳に送り、筋肉が指令を受けて動くというフィードバック制御を無意識に行っています。それができなければ、例えば一度歩き出したら車が来ていても止まることができなかったり、つまずいても体勢をたてなおすことができなくなります。大学で勉強した中では生命系に興味がありましたが、それを制御工学という情報の分野からアプローチしたらおもしろいのではないかと思い、専攻を決めました。4年生になるに向けてこれから研究が活発になっていくと思うのでがんばりたいです。

奨学会からのコメント 「はやぶさ」のプロジェクトマネージャー川口純一郎氏の専門が制御工学。なるほど、はやぶさの姿勢の制御は、太陽光をパネルに集め、サンプル採取時にも重要だった。いまや昆虫模倣学もある。

佐合 祐亮

中央大学
商学部会計学科 1年
(岐阜県立岐阜商業高等学校卒)

目標は公認会計士になること。ただし受験勉強だけに偏らず、一回一回の授業を大切に、英語学習にも励み、教養豊かな会計士を目指したい。

私は、大学在学中に公認会計士合格を目標にしているので、毎日、中央大学経営研究所に通っています。朝8時15分から22時45分まで、大学の授業がある時を除き公認会計士試験勉強をしています。入学した当初は、集中が長く続かず、本当に集中しているとはいえませんでした。しかし、いろいろな人の話をきくなかで、今の自分のままでは公認会計士になることができないと思い、集中して長時間学習することができるようになりました。また、授業と授業の間の時間を見つけて学習に励むことができている。現在は、12月にある短答式試験のために追い込みをかけています。朝早く起きて少し勉強したり、家に帰り空いた時間に勉強することができています。12月に短答式試験に合格ができるように全力を尽くしていきたいです。また、まだ自分にあまいところが多くあるので、今の勉強の仕方をつつと少しずつ自分を高めていき

います。私は、来年の8月にある論文式試験の合格を目標に励んでいるので今後も努力を続けていきたいです。

大学の授業では、多くの反省点があります。公認会計士試験の受験勉強を理由にテスト勉強に手を抜いてしまっていました。テストでも、点数がいい科目もありましたが、悪い科目もありました。ただ公認会計士になるのではなく、教養のある公認会計士になりたいので、受験勉強をいいわけに手を抜かないように努力していきたいです。また、私は公認会計士には英語力も求められていることを聞いたことがあるので、特に英語力もつけていきたいと思っています。後期のテストでは良い成績が収められるように、授業の1回1回を大切にしていきたいです。後期は、公認会計士試験の学習だけでなく大学の授業も両立させていけるようにがんばっていききたいです。常に上を目指してがんばっていきます。

奨学会からのコメント 教養とは幅広い「知識」ではなく、それを踏まえた判断力ではないか。数字の羅列にどのようなストーリーを讀み取るか。それが単なる担保としての会計士か、戦略を相談できる人材かの分かれ目。

この本をあなたにも薦めたい



ハーバード流 “NO”と
言わせない交渉術
ウィリアム・ユリー (著)
斎藤精一郎 (訳)

この本は交渉論で有名なハーバード大学の
カリスマ教授ウィリアム・ユリーによる交
渉術の実践編であります。大統領から世界を
代表する実業界のリーダーや政府外交高官な
どの「交渉のプロフェッショナル」に直接、

交渉術を指導してきた著者が、そのテクニ
ックをあますところなく伝えています。

交渉術と銘打っていますが、テクニッ
クの話より、交渉に臨むに当たっての考え方が
中心です。

交渉という場面に限らず、コミュニケ
ーションとか相互理解が必要な場面で参考にな
ると思います。

訳者である斎藤精一郎氏があとがきで次の
ように書いています。

「本書は単なるテクニクの書物ではない。
温かい人間哲学と理性的な人間心理学にきつ
ちりと裏づけられるとともに、著者のコンサル
タントとしての交渉現場での豊富な経験を
織り込んでいる点で、鋭い人間観察の書物で
もある」と。ぜひ一読を。

ハーバード流 “NO”と
言わせない交渉術
ウィリアム・ユリー (著)
斎藤精一郎 (訳)
出版社：三笠書房

平成27年度 スポーツ・文化系部活動振興支援事業並びに地域振興事業支援金 募集中!

締切日 (消印有効)
平成27年4月30日

詳細につきましては、下記財団ホームページをご覧ください。事務局へお問い合わせ下さい。

スポーツ・文化系部活動振興支援事業

■事業の概要

高等学校運動部及び文化系部活動のなかで、大きな目標を持ち、日頃から積極的な活動を実施している団体や、十分な活動時間が持てないなか活発に活動している特別支援学校等に対して、支援することを目的としております。

■審査基準

- ① 支援金は部活動向上のための商品、什器・備品等の購入のための支援金であり、遠征・宿泊費等は支援できませんのでご注意ください。
原則として、パソコン、ユニフォームも対象にしておりません。
- ② 活動内容が、部活動等を通じて豊かな人間性を確立するという目的に沿っているか、といった観点から審査いたします。必ずしも、よい成績を取めるためでなくてもかまいません。もちろん、独自の取り組みの結果として好成績を取めている場合は評価いたしますが、過去の成績だけで選考することはありません。

スポーツイベント

■事業の概要

当事業は、岐阜県内で開催される小・中・高生を対象としたイベントで、青少年の健全育成に寄与することを目的としております。
活動内容が、スポーツを通じて、仲間とともに力を合わせて心・技・体の鍛錬を重ねる活動であるかどうか、といった観点から審査いたします。
必ずしもよい成績を取めるためでなくてもかまいません。
予算の許す範囲で助成いたします。

■審査基準

- 助成対象は、岐阜県内で今事業年度(4月～翌年3月)に行なわれるイベントで、営利目的ではないことを条件としております。
助成申請があったイベントに対し助成をする応募型の助成で、青少年の健全育成または地域の活性化に資するかといった視点に立ち選考し、選考の結果、当法人が必要と認めた額を助成いたします。
ただし、下記のものは対象外となります。
- (1) 個人的な事業
 - (2) 毎年継続的に行なわれる恒例的な事業の複数回の助成(一回限りならば助成可能)
 - (3) 目的が明確でないもの
 - (4) その他、当財団がふさわしくないと判断したもの

地域振興事業

■事業の概要

当事業は、地域の各種団体等が取り組む様々な地域振興事業に資金の助成を行なうことで、人材の育成または地域の活性化に資することを目的としております。

■審査基準

- 助成対象は、岐阜県内で今事業年度(4月～翌年3月)に行なわれる文化・教育・国際交流等に関する事業活動で、営利目的ではないことを条件としております。
助成申請があった事業活動に対し助成をする応募型の助成で、人材育成または地域の活性化に資するかといった視点に立ち選考し、選考の結果、当法人が必要と認めた額を助成いたします。
ただし、下記のものは対象外となります。
- (1) 個人的な事業
 - (2) 毎年継続的に行なわれる恒例的な事業の複数回の助成(一回限りならば助成可能)
 - (3) 目的が明確でないもの
 - (4) その他、当財団がふさわしくないと判断したもの

■選考の流れ(全事業共通)

～平成27年4月 奨学会へ申請書を提出*

平成27年6月 審査

平成27年6月 結果を通知

平成27年7月 贈呈式

*高等学校の部活動は学校長を介して、奨学会へ申請書を提出してください。